

裾野市史

第四卷

資料編

近現代 I

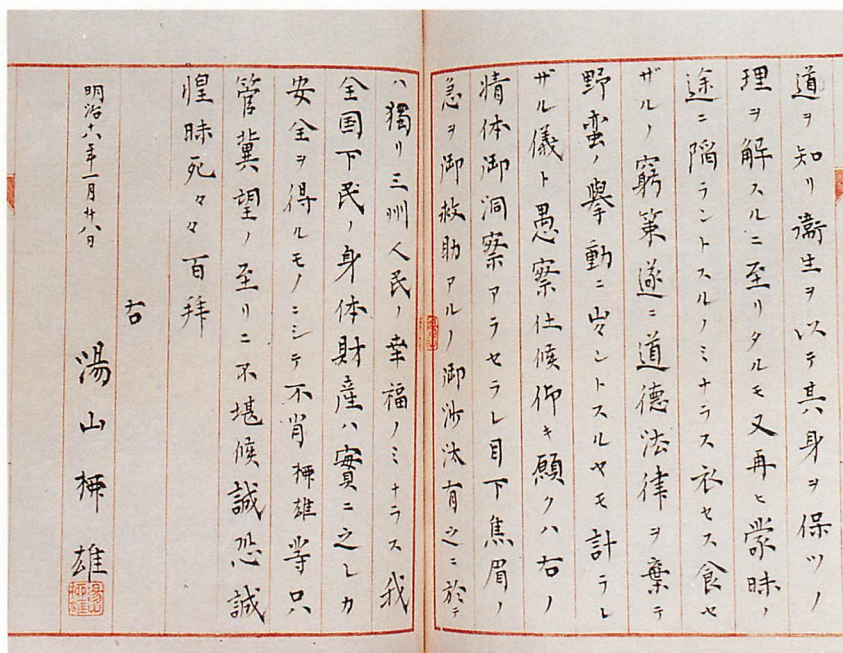
題字
裾野市長
市川
武



嶽南学校名額(三条実美 書) 裾野市立富岡第一小学校所蔵



明治15年に完成した嶽南学校 湯山芳健氏所蔵



道ヲ知り衛生ヲ以テ其身ヲ保ツノ
 理ヲ解スルニ至リタルモ又再ヒ蒙昧、
 途ニ陷ラントスルノミナラス衣セス食セ
 ガルノ窮策遂ニ道德法律ヲ棄テ
 野蠻ノ舉動ニ安ントスルヤ又計ラレ
 ガル儀ト愚察仕候仰キ願クハ右ノ
 情体御洞察アラセラレ目下焦眉、
 急ヲ御救助アルノ御沙汰育之ニ於テ

右

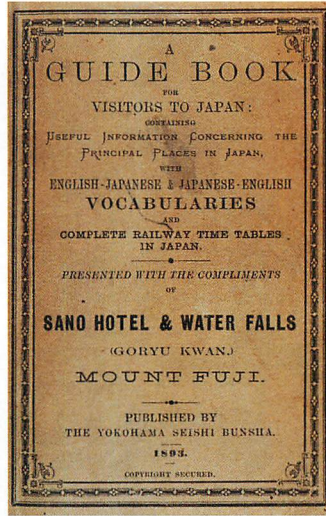
ハ獨リ三州人民ノ幸福ノミナラス我
 全国下民ノ身体財産ハ安否ニ之レカ
 安全ヲ得ルモノニシテ不肖柳雄等只
 管冀望ノ至リニ不堪候誠恐誠
 惶昧死々々百拜

明治十八年一月廿八日

湯山柳雄



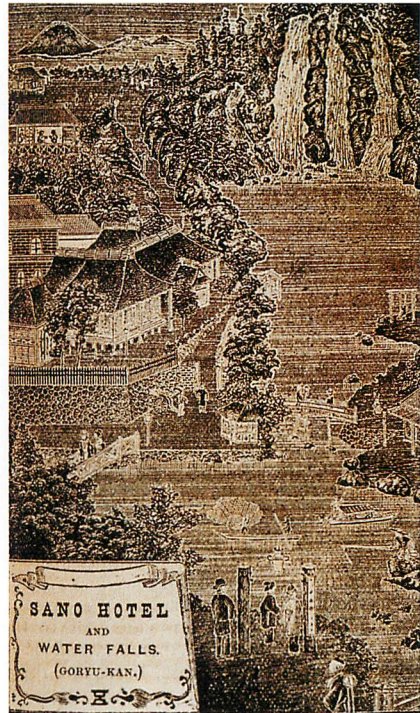
明治18年 湯山柳雄の建白書(本文資料No.294参照) 国立公文書館所蔵



SANO HOTEL
AND
WATER FALLS.
(GORYŪ KAN)
MOUNT FUJI.

Y. YUYAMA - - - Proprietor.

THE SANO HOTEL, situated on high land, half a mile from the Sano Station on the Tokaido Railway, commands a fine view of the five water falls (44 feet high and 15 feet wide) as well as of a large expanse of magnificent scenery. Part of the extended buildings is in Foreign and part in Japanese style; meals are served to suit either foreign or native tastes; and both hot and cold bath rooms are provided. The climate is temperate and equable, the temperature never rising above 75° Fah. in the heat of summer; capital fishing both with rod and net may be enjoyed; and in the hunting season splendid sport may be obtained in the covers adjacent to the hotel, which abound with quails, woodcocks, pheasants, copper pheasants, hares and other game.



明治27年 「佐野ホテル」英字ガイドブック

湯山芳健氏所蔵

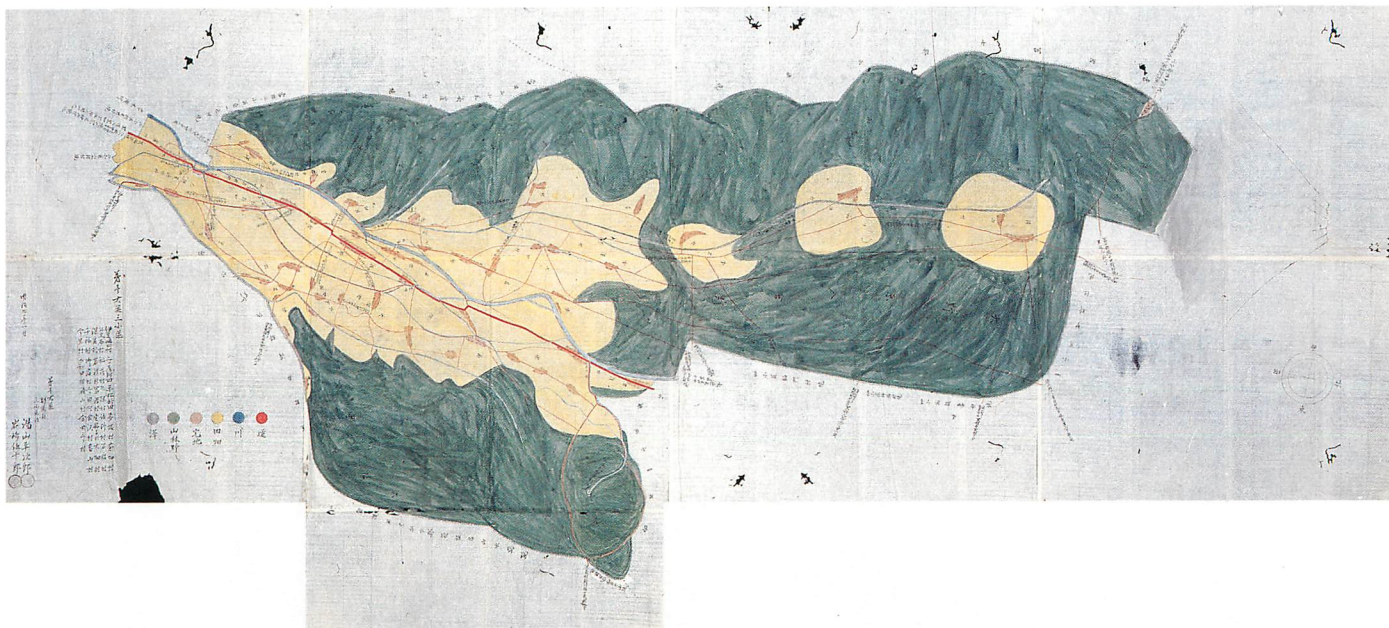
(本文資料No.178・252参照)

東海偉觀宏聖瀑園圖



此の図は、東海聖瀑公園の景観を写したものである。中央には、雄大な聖瀑が岩壁を駆け下り、湖に流れ落ちている。周囲には、伝統的な日本建築や庭園が整備されており、遊歩道やベンチが設置されている。背景には、雪をかぶった富士山が聳立している。遊園地には、遊覧船や遊具も見え、多くの人々が憩いを楽しんでいる。左下の案内板には「東海聖瀑公園」と記載されている。

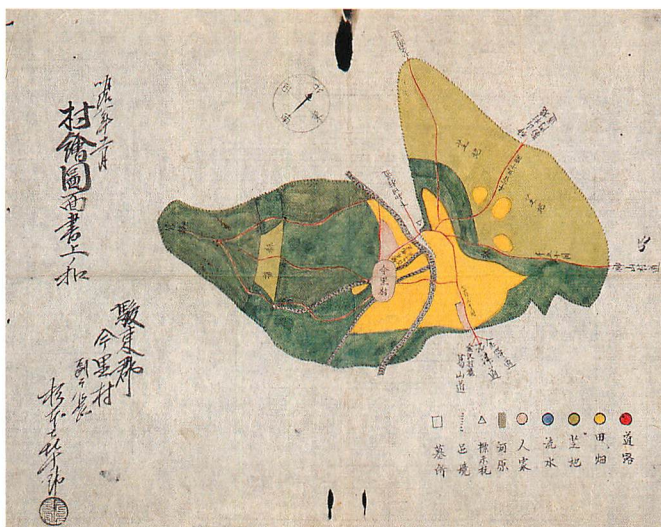
Mill of Shima.
SANO SUNTOGORI SURUGA
SHIZUOKAKEN JAPAN



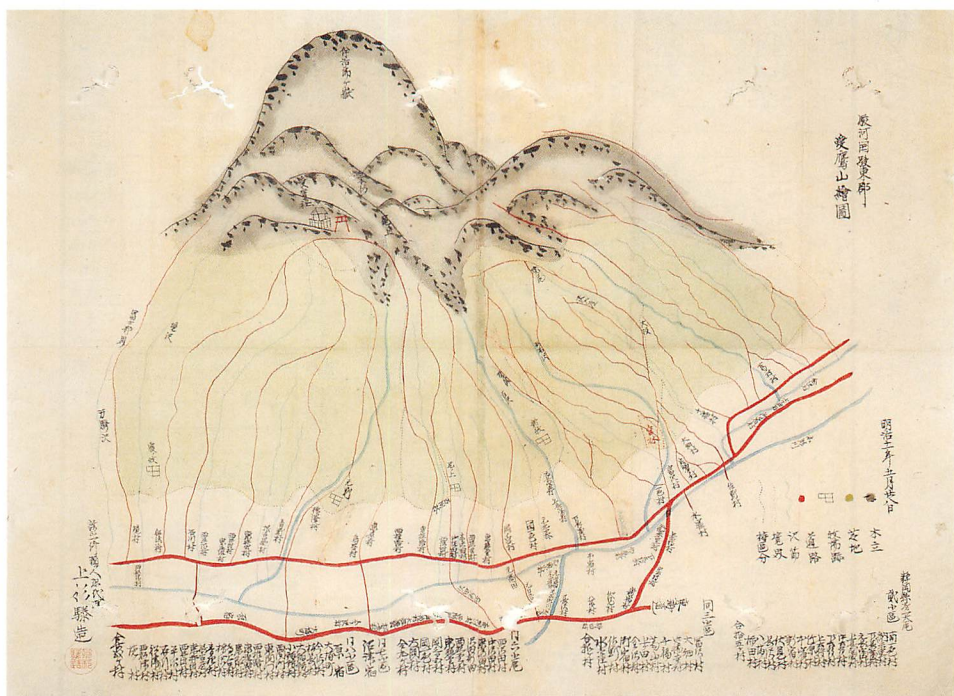
明治9年 第一大区三小区絵図 80cm×187cm 岩崎達生氏所蔵



明治初期 葛山村絵図 246cm×162cm 葛山財産管理委員会所蔵



明治 8 年 今里村絵図 32cm×41cm 今里区所蔵



明治 11 年 愛鷹山絵図 40cm×55cm 渡辺武彦氏所蔵

明治廿三年五月十六日改正

鐵道 東京新橋神戶間電車時刻表

駅名	新橋	品川	本町	川崎	津島	大塚	武蔵野	三軒	八王子	小川	三軒	新橋	新橋
時分	六分	九分	一分	二分	四分	五分	七分	九分	一分	二分	四分	五分	七分
時分	九分	一分	二分	四分	五分	七分	九分	一分	二分	四分	五分	七分	九分
時分	二分	四分	五分	七分	九分	一分	二分	四分	五分	七分	九分	一分	二分
時分	五分	七分	九分	一分	二分	四分	五分	七分	九分	一分	二分	四分	五分
時分	八分	一分	二分	四分	五分	七分	九分	一分	二分	四分	五分	七分	九分
時分	一分	二分	四分	五分	七分	九分	一分	二分	四分	五分	七分	九分	一分
時分	四分	五分	七分	九分	一分	二分	四分	五分	七分	九分	一分	二分	四分
時分	七分	九分	一分	二分	四分	五分	七分	九分	一分	二分	四分	五分	七分
時分	十分	一分	二分	四分	五分	七分	九分	一分	二分	四分	五分	七分	九分
時分	十三分	五分	七分	九分	一分	二分	四分	五分	七分	九分	一分	二分	四分
時分	十六分	八分	一分	二分	四分	五分	七分	九分	一分	二分	四分	五分	七分
時分	十九分	一分	二分	四分	五分	七分	九分	一分	二分	四分	五分	七分	九分
時分	二十二分	四分	五分	七分	九分	一分	二分	四分	五分	七分	九分	一分	二分
時分	二十五分	七分	九分	一分	二分	四分	五分	七分	九分	一分	二分	四分	五分
時分	二十八分	十分	一分	二分	四分	五分	七分	九分	一分	二分	四分	五分	七分
時分	三十一分	十三分	五分	七分	九分	一分	二分	四分	五分	七分	九分	一分	二分
時分	三十四分	十六分	八分	一分	二分	四分	五分	七分	九分	一分	二分	四分	五分
時分	三十七分	十九分	一分	二分	四分	五分	七分	九分	一分	二分	四分	五分	七分
時分	四十分	二十二分	四分	五分	七分	九分	一分	二分	四分	五分	七分	九分	一分
時分	四十三分	二十五分	七分	九分	一分	二分	四分	五分	七分	九分	一分	二分	四分
時分	四十六分	二十八分	十分	一分	二分	四分	五分	七分	九分	一分	二分	四分	五分
時分	四十九分	三十一分	十三分	五分	七分	九分	一分	二分	四分	五分	七分	九分	一分
時分	五十二分	三十四分	十六分	八分	一分	二分	四分	五分	七分	九分	一分	二分	四分
時分	五十五分	三十七分	十九分	一分	二分	四分	五分	七分	九分	一分	二分	四分	五分
時分	五十八分	四十分	二十二分	四分	五分	七分	九分	一分	二分	四分	五分	七分	九分
時分	六十一分	四十三分	二十五分	七分	九分	一分	二分	四分	五分	七分	九分	一分	二分
時分	六十四分	四十六分	二十八分	十分	一分	二分	四分	五分	七分	九分	一分	二分	四分
時分	六十七分	四十九分	三十一分	十三分	五分	七分	九分	一分	二分	四分	五分	七分	九分
時分	七十分	五十二分	三十四分	十六分	八分	一分	二分	四分	五分	七分	九分	一分	二分
時分	七十三分	五十五分	三十七分	十九分	一分	二分	四分	五分	七分	九分	一分	二分	四分
時分	七十六分	五十八分	四十分	二十二分	四分	五分	七分	九分	一分	二分	四分	五分	七分
時分	七十九分	六十一分	四十三分	二十五分	七分	九分	一分	二分	四分	五分	七分	九分	一分
時分	八十二分	六十四分	四十六分	二十八分	十分	一分	二分	四分	五分	七分	九分	一分	二分
時分	八十五分	六十七分	四十九分	三十一分	十三分	五分	七分	九分	一分	二分	四分	五分	七分
時分	八十八分	七十分	五十二分	三十四分	十六分	八分	一分	二分	四分	五分	七分	九分	一分
時分	九十一分	七十三分	五十五分	三十七分	十九分	一分	二分	四分	五分	七分	九分	一分	二分
時分	九十四分	七十六分	五十八分	四十分	二十二分	四分	五分	七分	九分	一分	二分	四分	五分
時分	九十七分	七十九分	六十一分	四十三分	二十五分	七分	九分	一分	二分	四分	五分	七分	九分
時分	一百	八十二分	六十四分	四十六分	二十八分	十分	一分	二分	四分	五分	七分	九分	一分

明治23年 東海道線時刻表

渡辺武彦氏所藏



SANO STATION, TOKAIDO

佐野停車場



TOWN OF SANO, TOKAIDO

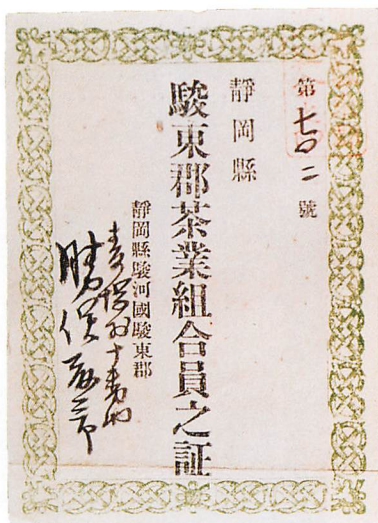
佐野停車場より市街を望む

佐野名所絵はがき・明治中頃の佐野駅前(現裾野駅)

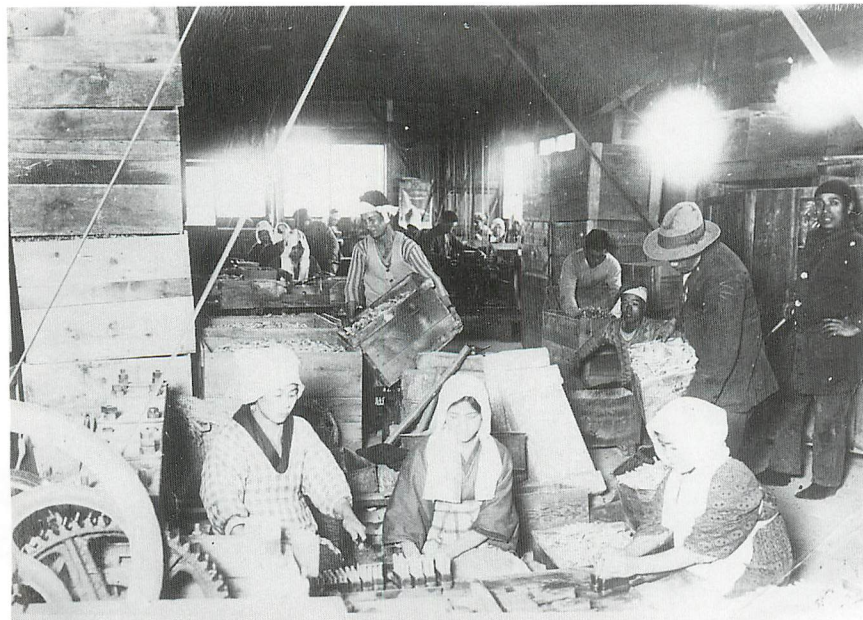
中川 力氏所蔵



大正元年 芹沢銀行株券
勝俣恵一郎氏所蔵



明治27年 駿東郡茶業組合員之証
勝俣恵一郎氏所蔵



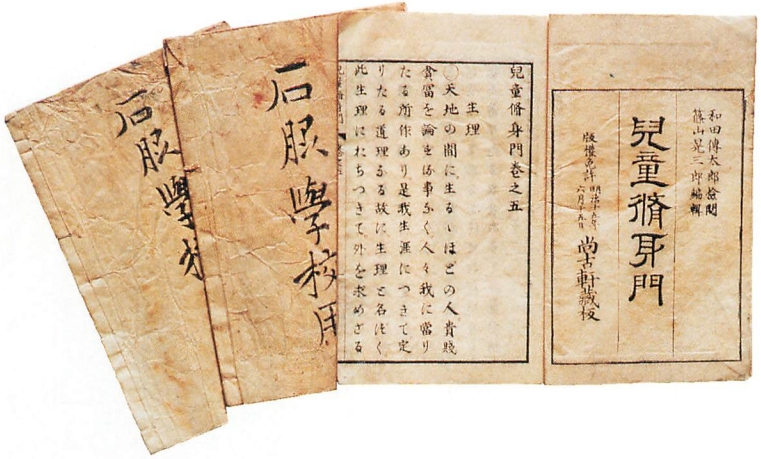
福島竹細工工場での仕事の様子 福島尹夫氏所蔵



深良尋常小学校卒業記念(深良小学校創立100周年記念誌『ふから』より)



大正7年 小泉尋常小学校卒業記念 持田利泰氏所蔵



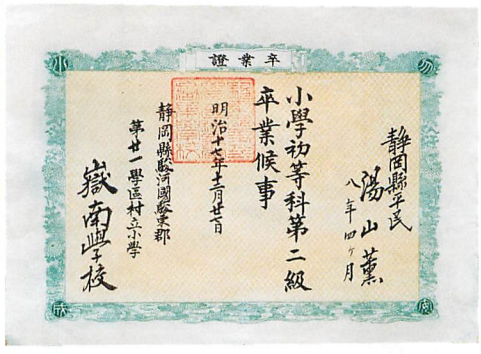
石脇区所蔵



石脇区所蔵

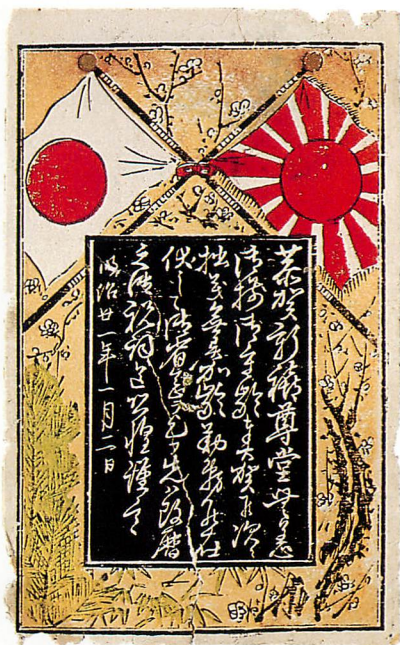


服部鈴子氏所蔵



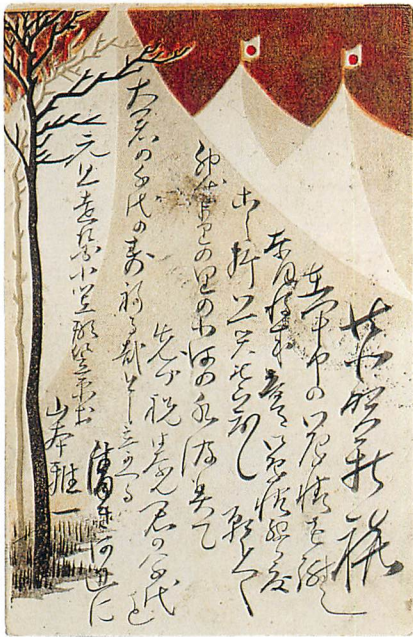
湯山芳健氏所蔵

明治期の小学校教科書・掛図と卒業証書



明治21年頃の軍事郵便

杉本清住氏所蔵





西南戦争戦死者の碑 佐野原神社



日露戦争戦死者 表忠碑 富岡生霊神社



日露戦争戦死者の墓 須山

発刊のことば

裾野市長 市川 武



裾野市史編さん事業発足以来五年、ここに関係各位の多大なご尽力により、すでに刊行されている「資料編深良用水」「資料編考古」に引き続き、第三冊目となる「資料編近現代Ⅰ」を発刊するはこびとなりました。まことによるこばしいことであります。

さて、本巻は明治初年から第一次世界大戦期までの裾野市内の重要資料を、内容別にそれぞれ年代順に掲載しました。明治五年は、平成四年からちようど百二十年前にあたり、開港以来、近代国家日本の樹立を目指し、富国強兵を国策の中心に据えた明治政府は、次々と新しい政策を打ち出しました。この年の九月には、早くも新橋―横浜間の鉄道も開通し、西洋化は急激に進められていきました。

こうした国内情勢は、当然のことながら裾野の地にも大きな影響を与えています。本巻に掲載された

六百余点の資料からは、明治政府が出す様々な通達を受け、地域の発展に尽くした湯山半七郎をはじめとする指導者たちの動きから庶民の日常生活に至るまでの実情が浮かび上がってくるものと考えております。

裾野市史「資料編近現代Ⅰ」が、多くの皆さまに親しまれ、学校現場や郷土研究に携わる方々に活用され、郷土に対する関心、理解、愛着がますます深められていくことを願っております。さらに、近現代史研究の学術的な文献資料として、近隣市町村史や県史と合わせて、ご高覧いただけたら幸いです。おわりにあたり、貴重な資料を快く提供していただいた所蔵者の皆様、様々なかたちでご協力をいただいた多くの方々や関係諸機関、多忙な中、資料調査・選択、編集にあたられた委員各位に対しまして、重ねて厚くお礼を申し上げます。

平成五年三月

刊行によせて

裾野市史編さん専門委員 四方 一 洸

裾野市は、三つの山の裾野が入り合う地点、北から南に流れる黄瀬川にそって南北に展開する。文字どおり山すそのうえに繰り広げられた自然環境であり、そこに住む人びとの暮らしは山と台地と川に育まれ、働きかけ、切り拓き、共存した民衆の歴史である。

ここに住む人びとは、雄大な裾をひき、時のめぐり、四季のめぐりに装いをこらす富士の美しさに清々しい思いを澄まし、おだやかな函嶺の稜線と萌えいづる緑の山ふところに人の心の温かさを育まれ、岨々たる愛鷹の尾根に、厳しさに立ち向かう意思と忍耐を培い黄瀬川の溪流と深良用水の豊かな水に、潤いと安らぎをあたえられた。

かつて裾野市は深良・泉・小泉・富岡・須山の五か村からなり、それより先は今日の区に相当する二四の村に分かれ、おのおのが独立した村を構成し、それぞれの生活環境のなかで独自の生活を営んでいた。居住地域は主として黄瀬川の両岸および須山街道に沿って帯状に連なり、背後の山地と黄瀬川には

さまれた、水にめぐまれない狭い農耕地を生業の場とした。標高差・温度差も大きく、かならずしも豊かとはいえず、また深良・富岡・須山の北部の集落と泉・小泉の南部の集落とは生産も生活も異なり、北部諸村においても自然の環境のみならず歴史的環境も一様ではなかった。

このような立地条件は、南は沼津・三島の城下町・宿場町と、北は御殿場にはさまれた通過地点として政治的にも経済的にも顕著な自立と発展から疎外され、裾野の近代的な都市への脱皮を著しく妨げてきた。たしかにそこには一部の人びとの政治的あるいは文化的な活動や努力のあったことは見逃し得ない。しかしそれが地域全体のエネルギーにまで昂められるにはいたらなかった。東海道本線の敷設は、わが国の最も重要な鉄道幹線の沿線に裾野を位置づけることになった。裾野のもつ自然の景観が国内外に裾野の存在を明らかにした。しかしそれも決して長つづきするものではなかった。

だが、自然の環境も生産様式も、そして歴史的環境をも異にするそれぞれの村々が、この狭間的な環境のなかで、いな、むしろこの狭間的環境のゆえにそれらの個性、自立性を超えて協力し、協調してそこに住む人びとの生活を、自らの手で守りつづけてきた。それは単に村落間の協調のみならず、村のなかの階層を超えて村落共同体としての融和と協調の社会をつくりだしていった。もちろん部分的に紛争がなかったわけではない。しかしそれは自らの置かれた状況をふまえた人びとの叡智によって安穏な生活を、自然のめぐみを維持しつづけることができた。やがてこれらの村々がひとつになって「裾野市」を生みだすにいたったことは歴史的に当然ともいいうるであろう。

高度経済成長期にあって裾野市もまた、近代化の波にとり残されているわけにはいかなかった。大企業が相ついでここに進出し、町の景観も住民の生活も、そして地域社会の在り方も大きく変貌せざるをえなくなった。新しい時代の新しい富を求めていかなければならなかった。だがそれは、裾野の地域に生き自らの故郷への限りない愛おしみとその自然を守りつづけた先人たちの叡智によって可能にされたといっても過ちではないであろう。

裾野の近代の発展は、決して目まぐるしいものでも時代を先どりするものでもなかった。しかしそれはいたずらに旧套を墨守するものでもなかった。しっかりと大地に足を据えながら自らが置かれた諸条件を厳しく見詰め、自らの生き方を、真摯にまさぐりつづける民衆の力と歴史の尊さを教えるものといえよう。

平成五年三月

『裾野市史 資料編近現代Ⅰ』の刊行にあたって

裾野市史編さん専門委員 安田 常雄

『裾野市史』の「近現代資料編」は、ほぼ明治維新から現代までの激動の時代を対象とし、全二巻で構成する計画である。この度、刊行される「近現代資料編Ⅰ」は、明治初年からほぼ第一次世界大戦期（一九一四—一九年）にわたる、裾野地域の人々の暮らしを軸に同時代の多様な姿を浮彫りにすべく編集されている。

この「近現代資料編」の編さんが始まったのは、一九九一年の一月であった。しかし、それはすべて零ゼロからの出発であった。近世を中心とする基礎的文書の整理についてはいくぶんかの蓄積はあったが、固有の近現代関係の文書についてはまったく白紙であり、加えて「裾野市」の近現代の歴史を概観的にイメージできる手がかりもほとんどなかった。裾野地域の歴史について書かれた本も、学校教材や地域の「案内」以外にほとんどなく、また基礎的事実の確定に不可欠な系統的な「年表」も存在しなかったのである。しかし、いうまでもなく書かれた歴史書はなくとも、ひとびとの暮らしがあるかぎり、暮ら

しのなかに埋めこまれるように民衆の歴史は存在するのであり、それを一つひとつ復元する基礎的作業が始まったのである。深良用水については、すでに『裾野市史資料編深良用水』（一九九一年刊行）として独立の刊行計画が作られていたため、用水関係の資料は除き、一点ずつ資料を確認し、カードを作り、目録としてまとめていくという作業が続けられた。周知のように近現代の資料は膨大な量にのぼり、そのため、市史編さん室の方々をはじめ、他の時代を担当する専門委員・調査委員の方々に応援していただき、またたくさんの臨時職員の方々の助けを得て作業をすすめることができた。ある時は資料を所蔵する個人のお宅、また時には神社の社務所・地区の集会所などで資料調査を行っていたが、いまでも、聞こえていたせみの声やなめに降りしきる雪の光景などを想いだすことができる。

主な資料としては、裾野地域の古い家に残る個人文書、市役所の本庁に所蔵されている各部局の「行政文書」、また特に深良・富岡・須山支所に所蔵されている「支所資料」そして石脇・佐野・御宿・葛山・今里などの「区有文書」を利用させていただき、さらに佐野原神社の資料も利用した。それ以外に同時代の新聞資料のマイクロフィルム（函右・大務・静岡新報・重新・沼津新聞）を意識的に活用したが、それは事実確認の資料であるばかりではなく、それぞれの時代のイメージと雰囲気を生きいきと呼び起してくるからである。その資料全体はほぼ二〇、〇〇〇点余りに及ぶ。

数年にわたる作業の結果、「第一次選択目録」が出来上がったのは一九九二年の早春であり、それ以後資料本文八〇〇頁前後を目標に、各分野での厳密な選択作業がつけられた。一方で選択が確定した

文書については解読・筆写を依頼し、他方で一点ずつ原文書にあたりながら選択を進めていった。周知のように近代資料には簿冊資料が多く、その厚い資料からある一部を選択する作業が最も時間と労力を必要としたと言えるかもしれない。九二年秋からは口絵資料の選択、統計図版の資料作成なども組込みながら、「第三次目録」にそって厳選し、最終的に資料総点数、六二〇点の選択が確定したのである。

こうして刊行された「近現代資料編1」が、市民の一人ひとりにとって、今の暮らし方を冷静にとらえ直し、新たな時代のむかう市民としての生きかたを再考する何がしかの手立てとなればと願っている。最後に、本書刊行までの実に多くの方々の献身的努力に対し、深く御礼を申し上げたい。

凡 例

一 本資料編は、明治・大正初期を対象に、明治六年（一八七三）から第一次世界大戦期（一九一八）までの資料六二〇点を収録した。

一 本書は三章から構成され、資料には検索上の便宜を計るため通し番号を付した。

一 字体は原則として常用漢字を用い、異体字は正字に改めた。但し、常用漢字にない字や固有名詞は原資料のままとした。

一 変体仮名は、助詞等に慣用的に使われる者・江・与・茂・ニ而・而已・夕・夕・る・ゑは、資料の字体にあわせて、平仮名・片仮名に改めた。

一 誤字・脱字などの補正は右傍に注記した。

一 虫損・汚損などにより判読不可能な箇所は、□（一字分）、□□（二字分）、□□□（字数不明）のように示した。またブライバシーを配慮した箇所も同様の扱いとした。

一 敬語のための闕字は一字分空けた。

凡 例
一 文中に押されている印は、実際に押されている場合は㊦（私印）・㊧（公印）とし、写しの場合は印（私印）・㊨（公

例
印)とした。

凡

- 一 資料を読み易くするため、適宜に読点(、)句点(。)並列点(・)を付し、一点ずつの統一制を用いた。
- 一 繰り返し記号として、漢字一字は「々」、二字は「〳」、平仮名は「〵」、片仮名は「〶」を用いた。
- 一 資料に端裏書・奥書・裏書・付箋・朱筆・朱印などがある場合は「」で記し、右傍に注記した。
- 一 冊子の表紙は□で囲み、右傍に(表紙)と注記した。
- 一 資料の一部を抄録した場合は、その部分に(前略)・(中略)・(後略)と付した。
- 一 収録資料には、各資料の末尾に地区・所蔵者名、出典等を明記した。
- 一 資料中難解な文字については、適宜ルビをひらがなで、また原資料に元から付してあるルビには右傍に…を付した。

近現代 I 総目次

口	絵		
発行のことば		裾野市長市川武	一
刊行によせて		裾野市史編さん専門委員 四方一弥	三
『裾野市史 資料編近現代 I』の刊行にあたって		裾野市史編さん専門委員 安田常雄	七
凡 例			二
資料目次			九
口絵目次			六
統計図版目次			三
第一章 「近代化」への道			
第一節 暮らしの風景			三
第二節 地租改正と村			六

(1) 耕宅地の地租改正	六
(2) 入会林野の官民有区分	二六
第三節 産業と人々の仕事	一四三
(1) 明治前期の物産と産業	一四三
(2) 村の仕事	一五
第四節 近代の窓としての教育	一七〇
(1) 制度としての教育	一七〇
(2) くらしの中の教育	一九四
第五節 在村の神道 Topics I	二〇四
第六節 村と戦争	二二三
(1) 明治前期の村々	二二三
(2) 徴兵制	二六〇
第二章 地域社会の再編成の中で	
第一節 暮らしの風景	二七一
第二節 地域経済の展開	二九三

(1) 農業・養蚕・製茶	二九三
(2) 企業と銀行の設立	三〇一
(3) 箱根山新道開削問題と東海道線	三〇七
第三節 入会地をめぐる諸問題	三〇〇
第四節 自由民権運動と貧民党 Topics II	三〇三
(1) 自由民権運動をめぐる諸潮流	三〇三
(2) 貧民党とその背景	三〇九
第五節 近代教育の展開	三〇六
(1) 公教育の自由と統制	三〇六
(2) 子どもの生活と学校	三〇八
第六節 村と戦争	三〇九
(1) 町村制の施行と村落政治	三〇九
(2) 日清戦争	三〇七
第三章 帝国日本と地域村落	
第一節 暮らしの風景	三〇七

(1) 世相	五七
(2) 村の芸能	五四〇
(3) 衛生・伝染病	五四三
(4) 地域政治の動き	五四四
(5) 天皇の村落通過時の諸注意	五五五
(6) 明治天皇の大葬	五五八
第二節 諸産業の発展	五五八
(1) 農業生産の発展と農業諸団体の設立	五五八
(2) 養蚕・竹細工など特産品の発展	六〇〇
(3) 近代工業の芽ばえ	六〇五
第三節 入会地をめぐる諸問題	六三三
第四節 明治の家 Topics III	六三八
(1) 明治の家族	六三八
(2) 人の一生	六七五
第五節 〈教育〉による「国民」の再編成	六九三
(1) 小学校教育の再編と拡充	六九三

(2) 青年教育の組織・制度化	三二
第六節 村の政治と人々の暮らし	三三
(1) 戦中・戦後の行財政	三三
(2) 富士裾野演習場と人々の暮らし	三五
第七節 村と戦争―日露戦争―	三五
(1) 兵士召集	三五
(2) 出征のプロセス	八〇
(3) 戦死―村葬・戦病・合祀	八四
(4) 家族救護	八三
(5) 戦時協力	八四
統計図版	八四
解説	八六
あとがき	八五
裾野市史編さん関係者	八七

口絵写真 堤 勝 雄

近現代 I 資料目次

第一章 「近代化」への道

第一節 暮らしの風景

一	明治七年(一八七四)	九月	裾野郵便局沿革(抄)	壺
二	年月日不詳		雌雄瀑布景	壺
三	明治九年(一八七六)	一月二四日	強盜始末書	壺
四	明治七年(一八七四)	九月二四日	在来埋葬地書上	六
五	明治七年(一八七四)	一〇月二四日	行倒死人御訴書	六
六	明治七年(一八七四)	二月二五日	頼母子講 条約書	六
七	明治九年(一八七六)	一〇月二日	浄瑠璃寄夜興行願	七
八	明治九年(一八七六)	一〇月七日	相撲興行御願	七
九	明治一〇年(一八七七)	四月二五日	種痘御免許年月上申書	七
一〇	明治一二年(一八七九)	一〇月二日	虎列刺予防祈願成就につき花火打上許可願	七
一一	明治一二年(一八七九)	八月二六日	虎列刺予防日記ならびに諸用帳	壺

三	明治二年(一八七九)	一〇月 四日	コレラ治療に奮闘する医師	三
三	明治二年(一八七九)	一二月 八日	失火御届	三
四	明治三年(一八八〇)	五月 八日	盗難御届	三
五	明治四年(一八八一)	四月	富岡村消防組第一部沿革誌	三
六	明治四年(一八八一)	五月 一四日	駿東の馬市と賭博	三
七	明治四年(一八八一)	一二月	愛親講演名簿	三
八	明治三年(一八九〇)	二月 二〇日	私設消防時代の沿革	三
九	明治四年(一八八一)	九月	駿東病院第二出張所設立の件①	三
一〇	明治四年(一八八一)	九月	駿東病院第二出張所設立の件②	三
第二節 地租改正と村				
(1) 耕地地の地租改正				
二	明治 九年(一八七六)	三月 九日	久根村丈量着手御届書	六
三	明治 九年(一八七六)	八月 一七日	実地丈量催促の通達	六
三	明治 九年(一八七六)	九月	久根村丈量終了につき検査願	六
四	明治一〇年(一八七七)	五月 一五日	模範村へ連合心得方演説	六
五	明治一〇年(一八七七)	七月	模範区内地位連合に関し区戸長心得方演説	六
六	明治一〇年(一八七七)	九月 九日	第三模範区内地位連合につき各村総代人委任証	六

三	明治一〇年(一八七七)	九月 九日	第三模範区内地位等級連環各村総代人誓約書	九五
六	明治一〇年(一八七七)	九月 九日	地位設定日誌(抄)	九五
元	明治一一年(一八七八)	一月二四日	第三模範区内村々地位等級甲号表返却の願	一〇〇
三〇	年月日不詳		第三番模範村区内連環田位表	一〇一
三	明治一二年(一八七九)	三月一四日	明治一二年三月一日付人民必得書に対する質問書	一〇一
三	明治一二年(一八七九)	三月一七日	等級間の差米表につき布達	一〇四
三	明治一二年(一八七九)	四月一四日	地租改正事務担当につき委任状	一〇四
四	明治一二年(一八七九)	四月二四日	明治一二年三月一日付演達書等の趣につき請書	一〇五
五	明治一二年(一八七九)	一月二五日	第三模範区丁組合改正反額定約の証	一〇五
六	明治一二年(一八七九)	二月二七日	田畑收穫地価など垂示額受諾についての通達	一〇七
七	明治一二年(一八七九)	二月三〇日	第三番模範区丁組合田畑收穫反米額請書	一〇七
八	明治一三年(一八八〇)	一月 四日	第三模範区丁組合村々垂示額割当書上	一〇八
九	明治一三年(一八八〇)	二月二八日	第三模範区丁組合田方收穫表・畑方收穫表・宅地地価表	一一〇
四〇	明治一三年(一八八〇)	三月三一日	久根村地租改正入費取調書	一一三
四一	明治一三年(一八八〇)	四月一九日	第三番模範区丁組合改正新租上納願	一一三
四二	明治一三年(一八八〇)	三月一八日	茶畑村改租調印をめぐる紛争に関し済口示談書	一一五

四	明治一四年(一八八一)	三月 四日	上ヶ田村での地位等級改正の動き	二六
	(2)入会林野の官民有区分			
四	明治 六年(一八七三)	六月	葛山村・千福村の入会境界について為取替規定書	二六
四	明治 七年(一八七四)	二月一五日	佐野村の山税書上	二八
四	明治 八年(一八七五)	一〇月二四日	千福村の秣薪山について願書	二九
四	明治 九年(一八七六)	三月二七日	還禄士族へ須山村官林払下の達	三〇
四	明治 九年(一八七六)	五月一五日	須山村官林払下地につき伺書	三〇
四	年月日不詳		須山村愛鷹山付官林絵図面	三三
五	明治 九年(一八七六)	一〇月	還禄士族から須山村へ払下山林の永代売渡証文	三四
五	明治一五年(一八八二)	二月二五日	明治九年改正地券(須山村開墾試作地)	三五
五	明治一〇年(一八七七)	二月二九日	須山村内大野原入会地につき示談証写	三六
五	明治一〇年(一八七七)	一月	愛鷹入会山共有据置願写	三六
五	明治一三年(一八八〇)	二月一八日	江ノ浦山につき為取換議定之証	三九
五	明治一三年(一八八〇)	九月二二日	茶畑村内東山入会地官民有区分の儀につき願	三三
五	明治一四年(一八八一)	二月二六日	大畑・佐野・千福三か村入会地官民有区分願	三三
五	明治一五年(一八八二)	六月 四日	須山村字内野山野について入会村々人民と須山村 人民との誓約	三三

	第三節 産業と人々の仕事		
	(1) 明治前期の物産と産業		
癸	明治一六年(一八八三)	一月五日	大野原入会地の民有引戻願……………一七
甲	明治六年(一八七三)	八月一九日	拝借金願書……………一四
乙	明治六年(一八七三)	二月二五日	産物御届書 御宿村……………一三
丙	明治七年(一八七四)	三月一八日	陸運人馬の儀につき願書……………一四
丁	明治八年(一八七五)		明治八年物産取調書 石脇村……………一四
戊	明治八年(一八七五)	九月九日	製茶産出高御取調につき書上書 下和田村……………一四
己	明治一〇年(一八七七)	七月九日	勸業博覧会出品の篠竹……………一四
庚	明治一三年(一八八〇)	三月一〇日	明治一二年作毛成熟概況 富沢村……………一四
辛	明治一二年(一八七九)		山梨県への出稼の証 千福村……………一四
壬	明治一三年(一八八〇)	三月	製造人・職工 満一五年以上人員取調書 久根村……………一四
癸	明治一三年(一八八〇)	八月三日	明治一三年八月三日商業人取調 御宿村……………一五
甲	明治一四年(一八八一)	五月	桑葉売買日誌 千福村……………一五
乙	年月日不詳		酒造惣代心得書……………一五
	(2) 村の仕事		
乙	明治六年(一八七三)	九月二八日	威銃御免許願 富沢村……………一五

三	明治六年(一八七三)	二月二十七日	宿屋営業願の儀につき書付	佐野村	一五
三	明治七年(一八七四)	一〇月三十一日	自用水車の儀につき上申書	富沢村	一五
三	明治九年(一八七六)	三月二日	営業水車御免許御願	茶畑村	一五
三	明治九年(一八九六)	一〇月三日	自家用酒製造御免許申請	小泉村	一五
三	明治九年(一八七六)	一月二十四日	酒造の器械取調帳	御宿村	一五
三	明治一〇年(一八七七)	二月一日	新規桶作ならびに輪換御届書	伊豆島田村	一五
三	明治一〇年(一八七七)	二月六日	医業御免許願	伊豆島田村	一六
三	明治一〇年(一八七七)	三月十七日	三味線師営業願	伊豆島田村	一六
三	明治一〇年(一八七七)	二月六日	鍼治御免許願	平松新田	一六
三	明治一〇年(一八七七)	三月三十一日	産婆御鑑札御請書	佐野村	一六
三	明治一〇年(一八七七)	五月	青黛製造御届書	御宿村・大畑村	一六
三	明治一〇年(一八七七)	六月	人力車稼営業願	佐野村	一六
三	明治一〇年(一八七七)	六月二三日	荷車御免許願	御宿村	一六
三	明治一〇年(一八七七)	七月二〇日	自用荷車御免許願	伊豆島田村	一六
三	明治一〇年(一八七七)	七月二六日	古着古道具商廃業願	富沢村	一六
三	明治一〇年(一八七七)	八月二七日	酒造営業御免許御鑑札願	富沢村	一六
三	明治一二年(一八七九)	一〇月二三日	水車税の儀につき願書	富沢村	一六

六	明治一三年(一八八〇)	四月一日	質屋開業願および許可の達し 御宿村	一六
七	明治一三年(一八八〇)	八月一四日	俳優営業鑑札の願出についての注意	一六
八	明治一七年(一八八四)	四月二日	医術開業免許状御下附再願	一七
九	明治一九年(一八八六)	二月二日	駅伝営業願 深良村	一六
一〇	明治一七年(一八九四)	二月一九日	豆腐職営業御届 小泉村	一六
<p>第四節 近代の窓としての教育</p> <p>(1)制度としての教育</p>				
四	年月日不詳		久根小学校諸雑費日記帳	一七
五	明治 七年(一八七四)	一月一八日	小学校行餘舎設立入費方法書上	一七
六	明治 七年(一八七四)	三月	小学校誠求舎開業願	一七
七	明治 七年(一八七四)	七月一八日	私学映雪舎開業願	一七
八	明治 八年(一八七五)	八月二三日	甘静舎幹事試補人名	一七
九	明治 八年(一八七五)	二月二〇日	小学校支校設置願	一七
一〇	明治 九年(一八七六)	一月二日	小学校資本金減額願	一七
一一	年月日不詳		小学校貫信舎校則	一七
一二	明治 八年(一八七五)	八月二三日	書籍ならびに木盤御渡願	一七
一三	年月日不詳		小学校見取図および机・いす・黒板図	一七

一四	明治 八年(一八七五)	一月十五日	就学不就学取調通達	一八
一五	明治 九年(一八七六)	一月二日	就学不就学取調書上	一八
一六	明治 九年(一八七六)	二月二日	小学校幹事設置伺	一八
一七	年月日不詳		学校連合町村会規則	一八
一八	明治 八年(一八七五)	九月 四日	生徒試験日割	一八
一九	明治 八年(一八七五)	十二月	生徒小試験表	一八
二〇	年月日不詳		「果物」についての児童答案	一七
二一	年月日不詳		「稲」についての児童答案	一八
二二	年月日不詳		教育伝習課程とその品評	一八
二三	明治 八年(一八七五)	八月二八日	師範学校開業式通達	一八
二四	明治 八年(一八七五)	十二月二四日	教員試験通達	一八
二五	年月日不詳		算術指導ノート	一八
二六	明治 九年(一八七六)	八月 八日	正課伝習会開会通達	一九
二七	年月日不詳		教員研修所規則議案ならびに教員申合	一九
(2)くらしの中の教育				
二八	明治 八年(一八七五)	六月二一日	入校につき静岡行日記	一九
二九	明治 八年(一八七五)	十二月二九日	夜学授諸記	一九

三〇	明治 九年(一八七六)	三月 二日	棄兒養育米伺	一九
三一	明治 四年(一八八一)	三月 五日	一六会より夜学が必要	二〇〇
三二	明治 四年(一八八一)	九月 二日	学校より屋台が必要	二〇〇
三三	明治 四年(一八八一)	五月 二日	近藤塾入塾志願	二〇〇
三四	明治 二六年(一八八三)	一月 一日	寺子屋教材初学法帖教種	二〇二
第五節 在村の神道 Topics I				
三五	明治 六年(一八七三)	三月 二七日	神祭につき手踊願	二〇四
三六	明治 七年(一八七四)	一月 三日	紙喪祭願書	二〇四
三七	明治 七年(一八七四)	二月 九日	神武天皇遥拝所設置願書	二〇六
三八	明治 七年(一八七四)	四月 二六日	教導職湯山半七郎 顕幽分界説教	二〇七
三九	明治 七年(一八七四)	五月 六日	教導職湯山半七郎 文明開化説教	二〇九
四〇	明治 七年(一八七四)	一月 八日	教導職湯山半七郎 勸業説教	二二二
四一	明治 八年(一八七五)	五月 一七日	教導職湯山半七郎 学校奨励説教	二二三
四二	明治 八年(一八七五)	一月 二七日	邪蘇教防御誓文	二二四
四三	年月日不詳		邪蘇教防止有志誓約書	二二五
四四	明治 一〇年(一八七七)	一月 二七日	修験者神仏混交改正につき延触	二二六
四五	明治 二〇年(一八八七)	九月 一〇日	谷干城、佐野原神社建碑に尽力	二二七

一三	明治 八年(一八七五)	九月二五日	佐野原神社建設上棟書	一三七
一七	明治 九年(一八七六)	五月	佐野原神社建設寄附御連名帳	一三〇
一八	明治 九年(一八七六)	二月二六日	富沢村愛鷹神社氏子帳	一三三
一九	明治二三年(一八九〇)	三月	神道大社教化決議書	一三六
二〇	明治一九年(一八八六)	三月二〇日	神道大社教への信仰	一三〇
二四	明治二八年(一八九五)		佐野原神社保有金募集趣意書	一三一
第六節 村と戦争				
(1)明治前期の村々				
一三	明治 七年(一八七四)	七月	明治六年千福村民費書上	一三三
一四	明治 九年(一八七六)	一月	三小区扱所費割取立簿	一三四
一四	明治 九年(一八七六)	四月二四日	伊豆島田村・水窪村合村につき村名更正願	一三六
一五	明治一三年(一八八〇)	一月	石脇村 凶災予備方法簿	一三九
一六	明治一三年(一八八〇)	八月二五日	御宿村村会のようす	一四一
一七	明治一三年(一八八〇)	九月二〇日	御宿村凶年予備貯蓄粃米取扱規則	一四二
一八	明治一三年(一八八〇)	一月二一日	二四か村連合村会のようす	一四四
一九	明治一三年(一八八〇)	一月	今里村村会規則	一四五
二〇	明治一三年(一八八〇)		今里村村会議事細則及び傍聴心得	一四六

二五	年月日不詳	連合村会規則	二五
二五	明治一七年(一八八四)	深良村戸長事務引継演説書	二五
二五	明治一八年(一八八五)	御宿村ほか一〇か村申合規約	二五
	(2)徴兵制		
二五	明治 七年(一八七四)	戊辰戦争戦死者埋葬墳墓の調査	二六〇
二五	明治一〇年(一八七七)	明治一〇年国民軍書上げ	二六〇
二五	明治一〇年(一八七七)	徴兵家族書	二六三
二五	明治一〇年(一八七七)	徴兵適齢の者逃亡の儀につき届書	二六四
二五	明治一一年(一八七八)	西南戦争の戦死者のための招魂社建築願	二六五
二五	明治一一年(一八七八)	徴兵代人につき約定証	二六六

第二章 地域社会の再編成の中で

第一節 暮らしの風景

二六	明治一四年(一八八一)	三月	音曲軍談興行願	二七一
二六	明治一五年(一八八二)	四月二九日	浄瑠璃人形人興行願	二七一
二六	明治一五年(一八八二)	一〇月二二日	神楽獅子舞願	二七三
二六	明治一七年(一八八四)	一月二五日	暴風被害報告	二七三
			御宿村	二七三

一六	明治一七年(一八八四)	一〇月二五日	ハワイへの農業移民募集について	一七四
一七	明治一八年(一八八五)	一月二六日	ハワイへの農夫募集 深良村	一七七
一八	明治一九年(一八八六)	八月一〇日	天然氷の販売 佐野村	一七九
一九	明治二二年(一八八九)	二月一九日	憲法は臣民の必読書	一八〇
二〇	明治二二年(一八八八)	四月 六日	郡と駿東病院との契約書	一八三
二一	明治二二年(一八八九)	三月一九日	第七区の国会議員(駿東郡域)	一八〇
二二	明治二二年(一八八九)	八月二六日	佐野の滝	一八〇
二三	明治二二年(一八八九)	九月 四日	佐野の滝の遊客(佐野瀑布の見学)	一八一
二四	明治三三年(一八九〇)	一月 四日	駿東郡北部の新年(太陰曆正月)	一八一
二五	明治三三年(一八九〇)	二月一五日	駿東郡北部の近況	一八二
二六	明治三三年(一八九〇)	四月三〇日	「奇怪な流言」コレラを防ぐ	一八三
二七	明治三三年(一八九〇)	六月 七日	佐野の滝	一八三
二八	明治三三年(一八九〇)	九月一〇日	同盟申合規約 富岡村今里	一八三
二九	明治三四年(一八九一)	三月二六日	村方警女泊り仕役控帳	一八五
三〇	明治三四年(一八九一)・大正五年(一九一六)		旅客宿泊人名簿 五竜館(明治三四年・大正五年)	一八六
三一	明治三六年(一九〇三)		太陽曆浸透せず	一八九
三二			明治二〇年代の暮らし	二九〇

第二節 地域經濟の展開

(1) 農業・養蚕・製茶

一〇	明治一八年(一八八五)		第二回製茶競進会褒賞授与式宴会歌	二九三
一一	明治一九年(一八八六)	一月三〇日	農事改良(御宿村外一〇か村)	二九三
一二	明治二一年(一八八八)		製糸紅女日当賃金表	二九四
一三	明治二一年(一八八八)	五月二一日	駿東郡茶業組合内景況(五月六日発)	二九四
一四	明治二二年(一八八九)	五月三〇日	駿東郡一番茶概況	二九五
一五	明治二三年(一八九〇)	五月一八日	駿東郡の茶況	二九五
一六	明治二五年(一八九二)	九月一八日	水車仲間加入約定ノ証	二九五
一七	明治二七年(一八九四)	一月三〇日	一ヶ年農業奉公人請状	二九六
一八	明治一八年(一八八五)	七月二二日	茶繭生糸共進会(開場式)	二九六
一九	明治一八年(一八八五)	九月一〇日	蚕業組合規約	二九七
二〇	明治一九年(一八八六)	五月二八日	郡長の論達(養蚕)	二九八
二一	明治二一年(一八八八)	四月二二日	駿東郡養蚕伝習所諸則	二九九
二二	明治二一年(一八八八)	五月 八日	養蚕景況(駿東郡蚕糸業組合)	三〇一
	(2) 企業と銀行の設立			
二四	明治二一年(一八七八)	六月二九日	環融社内則・貸金預り金取引規則・環融社募金表	三〇一

一五	明治一六年(一八八三)	七月二日	環融社より湯山半七郎あて書簡①	三六
一六	明治一六年(一八八三)	七月二六日	環融社より湯山半七郎あて書簡②	三八
一七	明治一六年(一八八三)	七月二九日	環融社の株主あて至急連絡	三九
一八	明治一六年(一八八三)	八月四日	御厨銀行規則	三〇
一九	明治一六年(一八八三)	九月二九日	御厨銀行開業	三四
二〇	明治一七年(一八八四)	六月二四日	貸付ヶ金証書写	三五
二一	明治二二年(一八八九)	五月五日	積信社の回顧	三六
二二	明治二六年(一九〇三)	九月	工場取調御届	三六
(3)箱根山新道開削問題と東海道線				
二三	明治一一年(一八七八)	一月二日	函嶺道路改革建言	三七
二四	明治一三年(一八八〇)	五月	函嶺山道開鑿結社連名帳	三八
二五	明治一三年(一八八〇)	五月二三日	箱根山開鑿道路の計画着手	三〇
二六	明治一四年(一八八一)	一月二七日	箱根山開鑿道路のその後	三〇
二七	明治一八年(一八八五)	一〇月八日	函嶺開鑿請願上京記	三一
二八	明治一八年(一八八五)	一月二六日	箱根山岐路車馬道開鑿願書御返戻願	三六
二九	明治一九年(一八八六)	一月二九日	函根山新道開鑿御官設願	三七
三〇	明治一七年(一八八四)	六月一〇日	足柄古道道路景況一斑	三九

三二	明治三年(一八九〇)	一〇月一日	小泉村佐野須山村間の道路修繕	三〇〇
三三	明治三年(一九〇〇)	四月一九日	新井坂道路改良の儀につき請願書	三〇〇
三三	明治四年(一九〇八)	三月一九日	知事、須山・佐野往還を視察	三〇一
三四	明治四年(一九〇八)	七月二五日	佐野・須山往還改修	三〇二
三五	大正二年(一九一三)	五月一〇日	道路類別変更請願	三〇三
三六	明治二〇年(一八八七)	五月二七日	駿東郡鉄道工事 平松・茶畑	三〇三
三七	明治二〇年(一八八七)	六月二二日	平松新田へ鉄道馬車停車場設置	三〇三
三八			東海道線の回想	三〇三
三九	大正元年(一九一二)	八月九日	東海道熱海線開設につき在来線の広軌願	三〇五
三〇	大正四年(一九一五)	六月二二日	佐野駅改称理由	三〇六
三一	大正四年(一九一五)	七月二五日	東海道佐野駅を裾野駅と改む	三〇九
第三節 入会地をめぐる諸問題				
三三	明治二〇年(一八八七)	四月二二日	須山一一三戸共有連名簿	三四〇
三三	明治二〇年(一八八七)	九月三日	愛鷹官林残木払下願および官地拝借開墾願	三四〇
三四	明治二二年(一八八九)	一月	愛鷹牧畜会社設立認可願および牧畜会社規則緒言	三四一
三五	明治三年(一八九〇)	八月二七日	愛鷹山御料原野秣払下規約書	三四二
三六	明治二六年(一八九三)	一二月二一日	葛山ほか三大字入会地についての契約書	三四三

三三	明治一七年(一八八四)	三月	茶畑村持字東山入会山保存規約証	三三五
三三	明治一八年(一八八五)	七月 八日	茶畑山御座ノ尾入会権裁判判決	三三五
三三	明治一八年(一八八五)	四月二三日	茶畑山移住開墾願	三三七
三四	明治二一年(一八八八)	一〇月一〇日	茶畑村開墾地規則	三三八
三五	年月日不詳		茶畑持東山入会山地についての規約	三三九
三六	明治二四年(一八九一)	四月二一日	協議費精算請求事件の判決	三三〇
三七	明治一八年(一八八五)	九月三〇日	公文名村・久根村山林増殖保護につき約定	三三二
三八	明治二六年(一八九三)	一〇月	江ノ浦山開墾栽培について久根・公文名の契約書	三三四
三九	明治三二年(一八九九)	二月	江ノ浦山植林・開墾についての請願書	三三六
四〇	明治三三年(一九〇〇)	九月二二日	江ノ浦山開墾請願に対する上申書	三三八
四一	明治三四年(一九〇一)	二月 五日	江ノ浦山開墾についての承諾書	三三九
四二	明治二〇年(一八八七)	八月二二日	柵林下草入会刈取についての約定	三七一
三七	明治二七年(一八九四)	三月二五日	愛鷹山民有引戻願	三三〇
三六	明治一七年(一八八四)	三月	茶畑村大野原不入会につき差入証	三三七
三九	明治二一年(一八八八)	四月	大野原官地払下願	三三七
四〇	明治二四年(一八九一)	三月 三日	大野原御料原野拝借料減額についての上申書および決議書	三三九

第四節 自由民権運動と貧民党 Topics II

(1)自由民権運動をめぐる諸潮流

①湯山柳雄の活動

二二三	明治一年(一八七八)	七月 六日	湯山柳雄物産興業に着目	二二三
二三四	明治三年(一八八〇)	九月二五日	二四ヶ村連合会における演述	二三四
二三五	明治四年(一八八一)	五月一〇日	御宿村で農事談話会を開く	二三四
二三六	明治四年(一八八一)	二月一〇日	御宿村で農事談話会を開く	二三五
二三七	明治七年(一八八四)	五月二八日	静岡県隆美協会規則諸言	二三七
二三八	明治七年(一八八四)	一〇月 四日	法律研究会を開く	二三八
二三九	明治三年(一八九〇)	七月二二日	富陽農産品評会の通知	二三九
二四〇	明治三年(一八九〇)	一〇月 九日	富岡・須山両村有志懇親会	二四〇
二四一	明治三年(一八九〇)	一〇月 九日	大麦品種改良に努む	二四〇
二四二	明治四年(一八九一)	七月二二日	佐野に五龍館開業	二四二
二四三	明治三六年(一九〇三)	九月一九日	進歩派高梨派と争う	二四三
二四四	明治三六年(一九〇三)	九月二二日	高梨派と争う	二四三
二四五	明治一八年(一八八五)	八月二八日	履歴書	二四五

②愛郷社の設立と解散

二五	明治一三年(一八八〇)	一月二四日	愛郷社の設立	二六四
二六	明治一四年(一八八一)	四月一九日	愛郷社諸言	二六四
二七	明治一四年(一八八一)	四月二七日	愛郷社の隆盛	二六五
二八	明治一四年(一八八一)	七月五日	愛郷社演説会の広告	二六六
二九	明治一四年(一八八一)	七月二六日	愛郷社第三常会演説	二六六
三〇	明治一四年(一八八一)	九月一日	愛郷社員懇親演説会	二六七
三一	明治一四年(一八八一)	九月二三日	愛郷社第四常会演説予告	二六七
三二	明治一四年(一八八一)	九月二四日	愛郷社第四常会演説報道	二六七
三三	明治一四年(一八八一)	一月二八日	愛郷社演説	二六八
三四	明治一五年(一八八二)	一月二五日	愛郷社会議広告	二六八
三五	明治一五年(一八八二)	二月四日	愛郷社解社広告	二六八
三六	年月日不詳		湯山半七郎「身家盛衰ノ循環ハ何レノ点ニ有ヤ」	二六八
③嶽南自由党の活動				
三六	明治一五年(一八八二)	三月二日	岳陽青年親睦会の景況	二六九
三七	明治一五年(一八八二)	三月二三日	御厨懇親会概況	二七〇
三八	明治一五年(一八八二)	三月二四日	嶽南自由党入党勧誘等の広告	二七〇
三九	明治一五年(一八八二)	三月二九日	嶽南自由党入党勧誘広告	二七〇

二七三	明治一五年(一八八二)	五月一〇日	懇親会の盛況……………	三九四
二七三	明治一五年(一八八二)	二月 八日	旧岳南自由党懇親会……………	三九五
二七四	明治一五年(一八八二)	二月一〇日	旧岳南自由党懇親会景況……………	三九五
	④尚義会の結成			
二七五	年 不詳	二月 七日	渡辺隼雄より岩崎佐十郎への書簡……………	三九六
二七六	年月日不詳		尚義会同盟簿……………	三九七
二七七	年 不詳	二月二〇日	天野幸逸より岩崎佐十郎宛書簡、表書きおよび裏書き……………	三九九
	(2)貧民党とその背景			
二七八	明治一四年(一八八一)	二月 五日	小作人集会等の事……………	三九九
二七九	明治一四年(一八八一)	二月二四日	小作人村八分のこと……………	四〇〇
二八〇	明治一六年(一八八三)	四月	千福に天狗回章あり……………	四〇一
二八一	明治一六年(一八八三)	二月二八日	御厨銀行襲撃につき湯山半七郎書簡……………	四〇一
二八二	明治一六年(一八八三)	二月二五日	御厨銀行襲撃の動き……………	四〇二
二八三	明治一七年(一八八四)	二月二九日	人民集合の情勢……………	四〇三
二八四	明治一七年(一八八四)	二月二八日	小作人、貧民寄合をなす……………	四〇三
二八五	明治一八年(一八八五)	一月 四日	御厨銀行移転広告……………	四〇三
二八六	明治一八年(一八八五)	一月 五日	貧民救助の原則……………	四〇四

二七	明治一八年(一八八五)	一月 六日	久根村の約定証	四〇四
二八	明治一八年(一八八五)	一月 八日	御厨銀行襲撃の形勢	四〇五
二九	明治一八年(一八八五)	一月 九日	御厨地方貧民集合	四〇六
三〇	明治一八年(一八八五)	一月 一八日	密告報告	四〇六
三一	明治一八年(一八八五)	一月 一九日	貧民寄合大惣代、御厨銀行無心につき、湯山半七郎宅 に来る	四〇八
三二	明治一八年(一八八五)	一月 二四日	貧民党深良村光泉寺に集合	四〇八
三三	明治一八年(一八八五)	一月 二八日	貧民党伊豆銀行に迫る	四〇九
三四	明治一八年(一八八五)	一月 二八日	湯山柳雄 一元老院に建白	四〇九
三五	明治一八年(一八八五)	三月 二日	建白書進達願	四二
三六	明治一八年(一八八五)	一月 三一日	駿東郡長、借金党・貧民党につき諭達	四三
三七	明治一八年(一八八五)	二月 六日	貧民党三島など各地に押出す	四四
三八	明治一八年(一八八五)	二月 七日	貧民党三島大社に集合	四五
三九	明治一八年(一八八五)	二月 一〇日	貧民党報道につき訂正	四五
四〇	明治一八年(一八八五)	二月 一〇日	貧民党三島押出しにつき諸氏説諭	四六
四一	明治一八年(一八八五)	二月 一三日	貧民へ慈善	四六
四二	明治一八年(一八八五)	二月 一三日	駿東郡長の諭達を読む	四七

三〇三	明治一八年(一八八五)	二月一四日	駿東郡長の論達を読む(統)	四一八
三〇四	明治一八年(一八八五)	二月一五日	駿東郡長の論達を読む(元)	四二〇
三〇五	明治一八年(一八八五)	三月一日	三島駅の借金党	四二三
三〇六	明治一八年(一八八五)	三月一七日	貧困党同盟規約を以て迫る	四二三
三〇七	明治一八年(一八八五)	四月八日	貧民党不穩	四三三
三〇八	明治一八年(一八八五)	四月二二日	貧民党鎮静の報道	四三四
三〇九	明治一八年(一八八五)	四月二二日	警察署の対応	四三四
三一〇	明治一八年(一八八五)	九月一九日	駿東郡下の窮状	四三五
三一	明治一八年(一八八五)	九月二二日	駿東郡下の窮状(続)	四三六
三二	明治一八年(一八八五)	九月二三日	駿東郡下の窮状(続々)	四三八
三三	明治一八年(一八八五)	九月二六日	駿東郡下の窮状(完)	四四〇
三四	明治一八年(一八八五)		榊研三訓導免官についての嘆願書	四四三
三五	明治二四年(一八九一)		榊研三君の伝	四四四
第五節 近代教育の展開				
(1) 公教育の自由と統制				
三六	明治一二年(一八七九)	五月九日	定輪寺支校据置願	四四六
三七	明治一三年(一八八〇)	五月	行餘舎維持法決議案	四四六

三八	明治一三年(一八八〇)	一〇月 七日	行餘舎(嶽南小学校)新築会議日誌	四三七
三九	明治一四年(一八八一)	九月二〇日	須山学校の新築	四六一
四〇	明治一五年(一八八二)	七月	徳育ヲ盛ニスルハ今日ノ急務	四四二
四一	明治一五年(一八八二)	七月二四日	嶽南小学校新築祝賀式	四四七
四二	明治一六年(一八八三)	五月二一日	嶽南小学校新築支払金高	四四七
四三	明治一六年(一八八三)	五月	嶽南小学校分離願	四四九
四四	明治一六年(一八八三)	一二月 六日	小学校敷地のため官有地拝借願	四五三
四五	明治一六年(一八八三)		嶽南小学校の出張所を五ヶ所に設ける件	四五三
四六	明治一六年(一八八三)	七月二七日	村立小学温知館既設の儀につき開申	四五四
四七	明治一七年(一八八四)	六月二一日	修身科教科書変更伺書	四五九
四八	明治一七年(一八八四)	一月	貫信舎支校設置議定	四六〇
四九	明治一〇年(一八八七)	四月 一日	駿東高等小学校寄宿生募集	四六一
五〇	明治一〇年(一八八七)	三月二二日	駿東高等小学校経費予算	四六一
五一	明治一三年(一八九〇)	七月 八日	御眞影拝戴拜賀式の通知	四六二
五二	明治一五年(一八九二)	一〇月一五日	高等小学校組織に関する件	四六三
五三	明治一五年(一八九二)	三月二六日	泉村・小泉村組合立佐野原尋常小学校規定	四六四
五四	明治一六年(一八九三)	三月二八日	泉村・小泉村組合立佐野原尋常小学校経費徴収方法	四六五

三三	明治二七年(一八九四)	四月二〇日	就学猶予願	四六
三三	明治二六年(一八九三)	一〇月	生徒貯金取扱規定	四六
	(2)子どもの生活と学校			
三七	明治二四年(一九八一)	二月	小遺帳	四八
三六			小学校時代の回想	四九
三六	年 不詳		作文帳(抄)	四三
三〇			農業補習学校時代の回想	四四
	第六節 村と戦争			
	(1)町村制の施行と村落政治			
四一	明治二一年(一八八八)	九月一四日	御宿村ほか一〇か村戸長、自治区造成の件につき意見 上申案	四七
三三	明治二一年(一八八八)	九月二五日	御宿村ほか一〇か村、自治区造成に関する諸表	四一
三三	明治二一年(一八八八)		御宿村ほか六か村、町村制実施につき意見書	四三
三四	明治二二年(一八八九)	五月 九日	小泉村分割についての村会決議	四四
三五	明治二二年(一八八九)	一月二七日	小泉村分離について村長の意見書	四五
三六	明治二二年(一八八九)	一月二三日	小泉村区域分割について村会議員の建議書	四六
三七	年月日不詳		分合見込町村調書(新小泉村)	四八

三六	年月日不詳	分合見込町村調書(泉村)……………	四九三
三六	明治二年(一八八九)	小泉村旧来町村区画沿革調……………	四九六
三五	明治三年(一八九〇)	四月 小泉村分離について郡長の副申控……………	四九八
三五	明治三年(一八九〇)	一〇月二〇日 小泉村分離についての告示……………	四九八
三五	明治三年(一八九〇)	二月二日 小泉村村会議事規則……………	五〇〇
三五	明治三年(一八九〇)	七月 三日 富岡村常設委員条例……………	五〇三
三五	明治三年(一八九〇)	九月二四日 富岡村千福非常取締規約……………	五〇五
	(2)日清戦争		
三五	明治一七年(一八八四)	二月二〇日 徴兵令改正……………	五〇七
三五	明治一七年(一八八四)	二月二〇日 徴兵逃れに対し注意……………	五〇七
三五	明治一一年(一八八八)	八月二五日 献納金取扱手続……………	五〇八
三五	明治一四年(一八九一)	一月二五日 徴兵入営者送別会趣意書……………	五〇九
三五	明治一七年(一八九四)	八月一三日 戦勝祈願祭執行通知……………	五〇
三六〇	明治一七年(一八九四)	八月 応召軍人家族保護規定……………	五〇
三一	明治一七年(一八九四)	一二月一九日 戦死者慰霊祭通知……………	五一
三三	明治一八年(一八九五)	四月二日 慰問文(明治一七・一八年戦役に際し慰問の為)……………	五三
三三	明治一八年(一八九五)	八月 七日 凱旋軍人歓迎宴会……………	五三

第三章 帝国日本と地域村落

第一節 暮らしの風景

(1)世相

三四	伊勢まいり	五七
三五	明治三〇年(一八九七)	一月三日 伊勢参りの自粛通達	五〇
三六	明治三〇年(一八九七)	二月 六日 またしても婚礼熱	五〇
三七	明治三二年(一八九九)	一〇月 五日 電話線のいたずら注意	五一
三八	明治三二年(一八九九)	一〇月二日 鳥獣の保護について	五三
三九	明治三五年(一九〇二)	一月三〇日 李氏、五龍館に滞在	五三
四〇	明治三六年(一九〇三)	九月二〇日 小泉の賭博	五三
四一	明治三七年(一九〇四)	二月 五日 幻燈講話会開催の案内	五三
四二	明治三九年(一九〇六)	一月二日 暴風雨被害状況	五三
四三	明治三九年(一九〇六)	九月二八日 須山農民の南米秘露国への移民	五三
四四	明治三九年(一九〇六)	一月二日 活動写真・蓄音機大会	五七
四五	明治四一年(一九〇八)	六月二七日 富士登山南表須山口	五七
四六	明治四一年(一九〇八)	六月二七日 合力営業許可願	五九

三七	明治四三年(一九一〇)	密造酒の取締	……………	五〇
三六	明治四四年(一九一一)	拳銃・仕込刀などの取締	……………	五一
三九	明治四五年(一九一二)	入学生徒増加による列車時刻変更の申請	……………	五一
三〇	明治四五年(一九一二)	生活状態調査	……………	五二
三一	大正 元年(一九二二)	行旅人死亡の費用と手続	……………	五三
三二	大正 二年(一九二三)	頼母子講調査	……………	五三
三三	明治三五〽三九年(一九〇二)〽一九〇六〇	葛山における悪風是正の契約書	……………	五七
(2)村の芸能				
三四	明治三四年(一九〇一)	遊芸稼人開業御届	……………	五〇
三五	明治三九年(一九〇六)	芝居興行届	……………	五一
三六	明治四一年(一九〇八)	見せ物興行御届	……………	五二
三七	大正 元年(一九一二)	浪花節興行届	……………	五二
(3)衛生・伝染病				
三八	明治三〇年(一八九七)	天然痘流行の予防	……………	五三
三九	明治三〇年(一八九七)	富岡村赤痢発生	……………	五三
三〇	明治三〇年(一八九七)	狂犬病流行	……………	五四
三九	明治三二年(一八九八)	駿東郡富岡村衛生組合規約	……………	五四

三九三	明治三二年(一八九八)	一〇月二日	看護婦講習会の開催	五四九
三九三	明治三二年(一八九八)	十一月一日	看護婦を地域で養成すること	五四九
三九四	明治三二年(一八九九)	七月二三日	富岡村医を置く	五五〇
三九五	明治三三年(一九〇〇)	八月二五日	伝染病隔離舎の建設について	五五一
三九六	明治三六年(一九〇三)	三月 九日	須山村飲料水調査	五五二
三九七	明治三八年(一九〇五)	七月一八日	ペスト病予防について	五五三
三九八	明治三九年(一九〇六)	六月二七日	布設水道に関する調査	五五三
(4)地域政治の動き				
三九九	明治三四年(一九〇一)	三月二四日	名望家の政友会入会	五五四
四〇〇	明治三五年(一九〇二)	九月二七日	政友会駿東郡中部懇親会	五五四
四〇一	明治三五年(一九〇二)	九月二七日	進歩党有力家の政友会入党	五五四
四〇二	大正 四年(一九一五)	三月三一日	大隈内閣への怨み	五五五
(5)天皇の村落通過時の諸注意				
四〇三	明治三二年(一八九九)	七月 一日	皇太子佐野瀑園行啓につき注意	五五五
四〇四	明治三八年(一九〇五)	十一月二日	天皇通過に關しての嚴重注意事項	五五六
四〇五	明治四四年(一九一一)	六月 八日	皇太子通過に關しての嚴重注意	五五六
(6)明治天皇の大葬				

四〇六	明治四三年(一九一〇)	五月一四日	エドワルド七世死去につき歌舞音曲の中止	五九
四〇七	明治四五年(一九一二)	七月二六日	明治天皇平癒祈禱の件	五九
四〇八	明治四五年(一九一二)	七月三〇日	明治天皇死去の告示	五九
四〇九	大正 元年(一九一二)	八月 三日	大葬についての心得	五九
四一〇	大正 元年(一九一二)	八月 六日	大葬に関する調査報告	五〇
四一一	大正 元年(一九一二)	九月一〇日	大葬につき日常生活に障りなきよう配慮の通達	五二
四一二	大正 元年(一九一二)	九月一八日	明治天皇御靈柩に関する警護心得など	五三
四一三	大正 三年(一九一四)	五月二七日	須山村遥拝式の報告	五七

第二節 諸産業の発展

(1) 農業生産の発展と農業諸団体の設立

① 農業概況

四一四	明治二八年(一八九五)	一月一五日	炭竈および炭小屋設置御届	五八
四一五	明治三一年(一八九八)	一月二八日	一ヶ年農業奉公人請状	五八
四一六	明治三一年(一八九八)	二月二三日	地主と小作人米割引問題で争う	五九
四一七	明治三六年(一九〇三)	三月 一日	雑誌発刊の計画	五九
四一八	明治三九年(一九〇六)	三月一九日	製茶生産・販売調査	五〇
四一九	明治三九年(一九〇六)	六月一七日	製茶調	五〇

四〇	明治四〇年(一九〇七)	七月二四日	須山の町村是調	五三
四一	明治四〇年(一九〇七)	九月一日	県下巡遊雑記・佐野の鈴木農場(一)	五五
四二	明治四〇年(一九〇七)	九月三日	県下巡遊雑記・佐野の鈴木農場(二)	五六
四三	明治四〇年(一九〇七)	九月二五日	県下巡遊雑記・佐野の鈴木農場(三)	五七
四四	明治四四年(一九一一)	八月三日	須山村負債額調べ	五八
四五	明治四四年(一九一一)	二月二八日	明治四四年町村別米実収成績	五九
四六	大正三年(一九一四)	五月九日	富岡村耕地整理	五九
四七	大正三年(一九一四)	六月二日	下和田耕地整理	五〇
四八	大正三年(一九一四)	一月二六日	須山村農産品評会	五〇
四九	大正四年(一九一五)	三月二日	麦立枯病発生	五一
②茶・勸業関係政策				
五〇	明治三一年(一八九八)	四月二日	養蚕伝習所の生徒募集	五一
五一	明治三四年(一九〇一)	一月四日	稲模範作競進会富岡村審査報告	五一
五二	明治三七年(一九〇四)	七月二九日	金原明善の講話会	五二
五三	明治三七年(一九〇四)	九月二日	白穂抜取に関する通牒	五三
五四	明治三七年(一九〇四)	九月一六日	麦稈直田伝習所の生徒募集	五三
五五	大正四年(一九一五)	九月一〇日	農事監督設置	五四

四六	大正 六年(一九一七)		本田稻作害虫駆除施行要項(富岡村農会)	五七
③諸団体				
四七	明治二八年(一八九五)		駿東郡富岡村勸業会々則	五八
四八	明治二八年(一八九五)	二月二七日	駿東郡小泉村農会々則	五九
四九	明治四二年(一九〇九)	二月二一日	千福報徳社定款	五三
五〇	明治四四年(一九一一)	三月二五日	優良報徳社調査 須山村	五八
(2)養蚕・竹細工など特産品の發展				
五一	年月日不詳		駿東郡蚕糸業組合富岡村養蚕小組合規約	六〇
五二	明治三二年(一八九九)	四月一三日	模範養蚕所設置	六三
五三	明治三四年(一九〇一)	三月二二日	明治三三年蚕業調査報告	六三
五四	明治三七年(一九〇四)	四月一三日	養蚕巡回講話会開催	六三
五五	明治三八年(一九〇五)		蚕病予防組合規約	六四
五六	大正 元年(一九一一)	一月	請願書	六六
五七	明治四一年(一九〇八)	六月 三日	竹行李同業組合	六八
五八	明治四一年(一九〇八)	八月一三日	スズ竹採集認可	六八
五九	大正 二年(一九一三)	八月二二日	箱根の竹林(一)	六九
六〇	大正 二年(一九一三)	八月二三日	箱根の竹林(二)	六〇

四〇	明治四一年(一九〇八)	二月一四日	輸出重要工産物の状況	六二
四一	明治四五年(一九一二)	七月一三日	清酒・竹製品調査 須山村	六三
	(3)近代工業の芽ばえ			
四二	明治二九年(一八九六)		静岡県駿東郡紙業組合同約(抄)	六五
四三	明治三八年(一九〇五)	三月 七日	湯山柳雄他二名駿東実業会を組織、春期大会を開催予 定	六六
四四	明治三八年(一九〇五)			六六
四五	明治三八年(一九〇五)	九月二九日	桑皮綿会社設立許諾について	六六
四六	明治三九年(一九〇六)	六月	株式会社日本桑皮製綿模範所創立趣意書・定款	六七
四七	明治四〇年(一九〇七)	二月	「株式申込書(佐野原銀行)	六八
四八	明治四〇年(一九〇七)	八月 四日	日本桑皮製綿、フランス・パリより直接注文あり	六九
四九	明治四三年(一九一〇)	五月	富士ガス紡績期成同盟会日誌(抄)	七〇
五〇	大正 二年(一九一三)	二月 一日	東洋織綿会社成立	七二
五一	大正 三年(一九一四)	八月二八日	佐野町不景気	七三
五二	大正 四年(一九一五)	一月三一日	御厨銀行・第六四期営業報告書(抄)	七四
五三	大正 四年(一九一五)	二月二八日	須山村商売状況調査	七五
五四	大正 四年(一九一五)	七月 六日	箱根水力電気	七六
五五	年月日不詳		株式会社佐野原銀行仮定款	七七

第三節 入会地をめぐる諸問題

四八〇	明治三五年(一九〇二)	七月 九日	開墾届出について茶畑非開墾者一同の陳情書	六五七
四七九	明治三三年(一九〇〇)	四月 七日	茶畑山樹木植付土地開墾および土地賃貸借に関する規定	六五三
四七六	明治二八年(一八九五)	一月 二五日	茶畑山開墾樹木植付の請願書	六四九
四七五	大正 四年(一九一五)	六月 七日	大野原御料地下草払下関し等一師団に対する請書	六四八
四七四	明治四四年(一九一〇)	七月 二一日	大野原御料地陸軍省へ貸渡につき注意	六四八
四七三	明治四二年(一九〇九)	四月 二一日	下和田字内山御料地下草払下願	六四七
四七二	明治四〇年(一九〇七)	七月 九日	今里字木ノ根坂御料地下草払下願	六四七
四七一	明治三五年(一九〇二)	五月 二二日	大野原御料地秣場下草払下継続願	六四四
四七〇	大正 三年(一九一四)		須山一一三戸共有誓約書	六四三
四六九	明治三九年(一九〇六)	三月 二七日	須山一一三戸共有権売渡証	六四二
四六八	明治三七年(一九〇四)	八月	愛鷹山割譲について千福の陳情書	六三九
四六七	明治三五年(一九〇二)	二月 二四日	愛鷹山割譲延期について今里の陳情書	六三七
四六六	明治三一年(一八九八)	一二月 一〇日	愛鷹山払下願書および指令書(抄)	六三四
四六五			薪採りについての回想	六三三

四一	明治三五年(一九〇二)	七月一八日	茶畑山開墾についての示談完結届	六五
四二	明治三五年(一九〇二)	七月一八日	茶畑山のうち麦塚・平松入会地開墾請求書および承認書	六〇
四三	明治二八年(一八九五)	一月	深良村山林組合規約	六一
四四	大正二年(一九一三)	四月五日	大畑・千福・佐野共有山林保護規約書	六三
第四節 明治の家 Topics III				
(1) 明治の家族				
四五	明治六年(一八七三)	二月	本分家一族定書	六八
四六	明治七年(一八七四)	五月	隠居相統取定	六〇
四七	明治一六年(一八八三)	一月二八日	年季雇人引受之証	六一
四八	明治一六年(一八八三)	旧正月一日	奉公人請状之証	六一
四九	明治一七年(一八八四)	二月六日	家督相統願書	六一
五〇	明治二三年(一八九〇)	九月二五日	離縁復籍届	六三
五一	明治二四年(一八九一)	七月二八日	縁組届	六三
五二	明治二九年(一八九六)	一月二四日	子守雇人之証および雇人規則	六三
五三	明治三三年(一九〇〇)	二月	遺書草稿	六五

(2) 人の一生

四四	明治三五年(一九〇二)		勝俣藤雄誕生祝の覚	六七五
四三	明治三五年(一九〇二)	三月三日	勝俣藤雄雛祭り・五月節句祝・ほうそう見舞の覚	六七八
四二	明治三八年(一九〇五)	一月二五日	勝俣藤雄三歳祝の覚	六八一
四一	明治四二年(一九〇九)	一月二六日	勝俣藤雄七歳祝の覚	六八二
四〇	大正五年(一九一六)	八月二三日	慈眼院本光源隆居士忌中見舞の覚	六八四
三九	大正一五年(一九二六)	二月二二日	紹光院興室貞栄大姉二五回忌・孝順院玉芳重艶禪童女七回忌の覚	六八七
三〇	大正一五年(一九二六)	三月二三日	勝俣藤雄祝言祝の覚	六八八
第五節 〈教育〉による「国民」の再編成				
(1) 小学校教育の再編と拡充				
二一	明治三〇年(一八九七)	八月一〇日	赤痢流行につき休校	六九三
二〇	明治三四年(一九〇一)	四月三〇日	御真影ならびに勅語設置場所	六九三
一九	明治三五年(一九〇二)		佐野原高等小学校の事務引継内容	六九四
一八	明治四〇年(一九〇七)	四月三〇日	小泉尋常小学校の設立	六九五
一七	明治四一年(一九〇八)	三月二四日	泉村立小学校創立記念林の造営	六九六
一六	明治三七年(一九〇四)	一〇月二二日	就学児童調査の差異について注意	六九七
一五	明治四四年(一九一一)	二月二四日	学齡児童の就学猶予免除について	六九八

五〇	明治三一年(一八九八)	一〇月二四日	教師より父兄への要望	六九
五〇九	明治三九年(一九〇六)	九月二五日	正副組長設置規程	六九
五二〇	明治三九年(一九〇六)		家庭通告表	七〇
五二	年月日不詳		児童成績物の回覧	七二
五三	大正 六年(一九一七)	一〇月 二日	学芸会開催の通知	七三
五三	大正 七年(一九一八)	一〇月 三日	秋期陸上運動会挙行の通知	七三
五四	明治四三年(一九一〇)	九月二六日	郷社・村社の祭典日を学校休業日とすること	七四
五五	明治四三年(一九一〇)	一二月 七日	女兒の髪飾りの廃止	七五
五六	明治四四年(一九一一)	四月	手工科加設許可願	七六
五七	明治四三年(一九一〇)	四月二〇日	「高等小学修身書 新制第三学年用書」の誦読通知	七六
五八	大正 元年(一九一二)	七月三二日	大葬につき学校・図書館等休業	七七
五九	大正 四年(一九一五)	一〇月二八日	御眞影拝戴式次第	七七
五〇	大正 五年(一九一六)		御大札奉祝景況報告	七九
五二	大正 四年(一九一五)		富岡村学齡児童救護規程	七〇
五三	明治四二年(一九〇九)	三月	嶽南尋常小学校舎移転に関する陳情書	七一
五三	明治四二年(一九〇九)	四月 一日	下和田校舎請願書	七三
五四	明治四三年(一九一〇)	三月一〇日	嶽南尋常小学校移転に関する決議書	七四

五五	大正 三年(一九一四)	三月二日	富岡村紛争再燃	七五
五六	大正 六年(一九一七)	二月 五日	嶽南尋常小学校の位置に対する内紛調定依頼	七六
五七	大正 六年(一九一七)		裁定書	七九
	(2)青年教育の組織・制度化			
五八	明治三二年(二八九九)	二月二三日	沼津簡易商業学校の設立	七二
五九	明治三六年(一九〇三)	九月 四日	裁縫教授支場設置	七三
五〇	明治四〇年(一九〇七)	四月三〇日	小泉村外三ヶ村佐野農業補習学校組合規定	七三
五一	明治四一年(一九〇八)	三月一九日	佐野農業補習学校	七三
五二	大正 六年(一九一七)		佐野農業補習学校と卒業生の進路	七四
五三	明治四四年(一九一一)	五月一〇日	須山実業補習学校学則	七五
五四	大正 二年(一九一三)		深良農業補習学校経費予算	七九
五五	明治三六年(一九〇三)	九月 八日	千福村夜学会	七九
五六	明治三五年(一九〇二)		千福村夜学校絵図面	七〇
五七	明治三五年(一九〇二)	九月一八日	旧弊矯正の祭典	七〇
五八	明治三八年(一九〇六)	四月 七日	通俗講演会、幻燈会の奨励	七一
五九	明治四二年(一九〇九)	六月二六日	須山村の社会教育	七三
六〇	大正 三年(一九一四)	五月 四日	金沢処女会発会式	七三

五二	大正 四年(一九一五)	二月三日	須山村より図書館設置につき申請	七四
五三	大正 四年(一九一五)	二月二八日	軍事思想普及の爲、陸軍将校の派遣	七六
五四	大正 五年(一九一六)	二月二日	冬期有志講習会開催通知	七九
五五	大正 五年(一九一六)	二月四日	公民思想の涵養奨励	七九
五五	大正 五年(一九一六)		深良村青年会々則	七四〇
五六	大正 四年(一九一五)		須山村青年会の事蹟の大略	七四三
第六節 村の政治と人々の暮らし				
(1)戦中・戦後の行財政				
五七	明治二七年(一八九四)		深良村村内取締同盟規約書	七四五
五八	明治三一年(一八九八)	五月一九日	須山村分離の件	七四七
五九	明治三五年(一九〇二)	一月 九日	須山村愛鷹神社の合祀届	七四八
五〇	明治三五年(一九〇二)	二月二八日	下和田の改革約定証	七四九
五一	明治三五・三六年(一九〇二・一九〇三)		須山村基本財産処分に関する顛末	七五〇
五二	明治三七年(一九〇四)	三月三十一日	深良村の改革規程	七五二
五三	明治三七年(一九〇四)	六月 二日	須山村戦時財政の状況	七五三
五四	明治三七年(一九〇四)	六月二六日	須山村の第二回国庫債券応募状況	七五七
五五	明治三九年(一九〇六)	二月 一日	須山村地租納税額別人員表	七六

五五	明治四〇年(一九〇七)	一〇月二十八日	五か村合併の件	七六
五五	明治四一年(一九〇八)	九月二十七日	小泉村制限外課税についての決議および理由書	七九
五五	明治四二年(一九〇九)	二月二十三日	戊申詔書の趣旨普及について須山村の報告	八〇
五五	明治四二年(一九〇九)	三月三日	戊申詔書について郡長の注意	八二
五五	明治四三年(一九一〇)	四月二十三日	富岡村分割に関する宣言書	八二
五五	明治四三年(一九一〇)	四月二十九日	富岡村分村期成同盟団規約書	八二
五三	明治四三年(一九一〇)	八月三十一日	富岡村分割に関する陳情書	八四
五三	明治四五年(一九一二)	一月八日	須山村郵便貯金奨励に関する調査	八七
五四	大正元年(一九一二)	二月二十八日	須山村国税徴収慣例調査報告	九〇
五四	大正二年(一九一三)	二月二十八日	小泉村納税者奨励規程	七三
五六	大正五年(一九一六)	四月二十七日	小泉村村税賦課徴収規程	七三
五七	大正五年(一九一六)	四月二十七日	小泉村基本財産蓄積条例	七四
	(2)富士裾野演習場と人々の暮らし			
五八	明治三七年(一九〇四)〜大正二年(一九一三)		帝国在郷軍人会富岡村分会の歴史(抄)	七五
五九	明治四〇年(一九〇七)	七月十三日	軍人行賞賜金消費額調査	七七
五〇	明治四〇年(一九〇七)	八月二日	兵事関係調査報告	七七
五一	明治四三年(一九一〇)	九月八日	在郷軍人会状態調査 須山村	七九

五三	明治三七年～大正二年(一九〇四～一九一三)帝国在郷軍人会小泉村分会の歴史(抄)……………	七五
五三	明治三二年(一八九九) 演習実施上の事務について……………	七三
五四	明治四一年(一九〇八) 大野原砲台建設……………	七六
五五	明治四一年(一九〇八) 実弾射撃に関する危険予防心得……………	七八
五五	明治四一年(一九〇八) 大野原砲台竣工 明年四月より執行……………	七八
五七	明治四五年(一九一〇) 発射砲弾破片の採集について……………	七〇
五八	明治四五年(一九一〇) 七月 五日 板妻演習場実弾射撃施行について……………	七二
第七節 村と戦争―日露戦争―		
(1)兵士召集		
五九	明治三四年(一九〇一) 九月一三日 静岡県人の尚武心について……………	七三
六〇	明治三五年(一九〇二) 一月二四日 徴兵適齢者、行方不明……………	七六
六一	明治三五年(一九〇二) 一〇月 七日 在郷各兵の調査について 須山村……………	七九
六二	明治四三年(一九一〇) 四月 八日 小学校教員の徴兵のがれに対する注意……………	八二
六三	明治四五年(一九一二) 四月二三日 兵事調査事項……………	八三
六四	大正二年(一九一三) 一月二五日 海軍志願兵に関する調……………	八三
六五	大正二年(一九一三) 五月一七日 壮丁検査施行に関する心得……………	八三
六六	日露戦争の回想……………	八三

(2) 出征のプロセス

五七	明治三七年(一九〇四)	三月 七日	応召軍人出発	八〇四
五八	明治三七年(一九〇四)	三月 一日	出征軍人送迎に關し費用節約の通達	八〇五
五九	明治三八年(一九〇五)	二月	小泉村出征軍人一覽表	八〇五
五〇	年 不詳	二月 五日	梶志津雄の湯山半七郎あてハガキ	八〇七
五一			書簡(ハガキ)	八〇七
五二	年 不詳	一月 七日	渡辺潔の湯山半七郎あて書簡	八一二
五三	年 不詳	二月 二日	海野忱作の湯山半七郎あて書簡	八一三

(3) 戦死 Ⅱ 村葬・戦病・戦病・合祀

五四	明治三七年(一九〇四)	六月三〇日	日露戦争中の戦病死者に關する諸規程	八一四
五五	明治三七年(一九〇四)	九月 二四日	遼陽攻撃戦死者報告	八一六
五六	明治三七年(一九〇四)	一月 二四日	小泉村戦死者合葬式	八一七
五七	明治三七年(一九〇四)	一月 二六日	須山村戦死者合葬式	八一九
五八	明治三七年(一九〇四)	一月 二八日	泉村戦死者合葬式	八二〇
五九	明治三八年(一九〇五)	一月 二九日	戦死者村葬行列次第	八二三
六〇	明治三八年(一九〇五)	一月 三日	凱旋通過軍隊歡迎規程	八二四
六一	明治三八年(一九〇五)	一月 二六日	忠勇徽章贈呈標準	八二五

六〇三	明治三九年(一九〇六)	一〇月一八日	靖国神社社会祀について	八二六
六〇三	明治四一年(一九〇八)	三月二七日	日露戦争戦利品下附願	八二七
六〇四	大正 五年(一九一六)	七月	日露戦争特別賜金管理規程	八二六
	(4)家族救護			
六〇五	明治三七年(一九〇四)		下士卒家族救助令施行に関する心得事項	八三〇
六〇六	明治三七年(一九〇四)	四月二日	出生軍人家族保護について	八三三
六〇七	明治三八年(一九〇五)	九月二九日	傷病者生活状態調査	八三三
	(5)戦時協力			
六〇八	明治三六年(一九〇三)		日露戦争に関する国民の善行美談調査標準	八三四
六〇九	明治三七年(一九〇四)	四月 八日	戦意昂揚の公開演説	八三五
六一〇	明治三七年(一九〇四)	九月一六日	戦時記念林の植付	八三六
六一一	明治三七年(一九〇四)	一〇月一日	毛布募集取扱手続とその精神	八三七
六一二	明治三七年(一九〇四)	一月一六日	出征軍人防寒用毛布の献納について	八三九
六一三	明治三七年(一九〇四)	二月二日	軍隊慰問心得	八四〇
六一四	明治三七年(一九〇四)	二月二四日	戦地への賀状の廃止	八四〇
六一五	明治三八年(一九〇五)		報国勤儉同盟規約	八四三
六一六	明治三八年(一九〇五)		旅順陥落祝捷会諸費用	八四三

二七	明治三八年(一九〇五)	六月二日	大麦收穫石数および購買について	八四
二八	明治三九年(一九〇六)	二月二七日	奨兵会歓迎会などへの費用負担	八四
二九	明治三九年(一九〇六)		日露戦争中のロシア正教会の扱いについて	八四
三〇	大正三年(一九一四)	五月一八日	忠魂碑宙に迷う	八七

口絵目次

- 嶽南学校校名額(三条実美 書)(裾野市立富岡第一小学校所蔵)
- 明治15年に完成した嶽南学校(湯山芳健氏所蔵)
- 明治18年 湯山柳雄の建白書(国立公文書館所蔵)
- 明治27年 「佐野ホテル」英字ガイドブック(湯山芳健氏所蔵)
- 佐野瀑園の図(横山正美氏所蔵)
- 明治9年 第一大区三小区絵図(岩崎達生氏所蔵)
- 明治初期 葛山村絵図(葛山財産管理委員会所蔵)
- 明治8年 今里村絵図(今里区所蔵)
- 明治11年 愛鷹山絵図(渡辺武彦氏所蔵)
- 明治23年 東海道線時刻表(渡辺武彦氏所蔵)
- 明治23年 東海道線運賃表(渡辺武彦氏所蔵)
- 佐野名所絵はがき・明治中頃の佐野駅前(現裾野駅)(中川 力氏所蔵)
- 明治27年 駿東郡茶業組合員之証(勝俣恵一朗氏所蔵)
- 大正元年 芹沢銀行株券(勝俣恵一朗氏所蔵)
- 福島竹細工工場での仕事の様子(福島尹夫氏所蔵)
- 深良尋常小学校卒業記念(深良小学校創立一〇〇周年記念誌『ふから』より)
- 大正7年 小泉尋常小学校卒業記念(持田利泰氏所蔵)

明治期の小学校教科書・掛図と卒業証書(石脇区所蔵・服部鈴子氏所蔵・湯山芳健氏所蔵)

明治21年頃の軍事郵便(杉本清住氏所蔵)

日露戦争戦死者 表忠碑(富岡生霊神社)

西南戦争戦死者の碑(佐野原神社)

日露戦争戦死者の墓(須山 祖霊社)

統計図版目次

図1 農産物量

図2 職業の変遷・富岡村

図3 明治8年の就学率

図4 就学率の推移

図5 人の一生

図6 日露戦争戦病死者

図7 各旧村(大字)の民有地目別反別と戸数・人口(明治22年頃)

図8 日清・日露戦争後の泉村村税の賦課・納入のようす